

平成26年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	実践を通じた ICT 活用環境の運用モデルの構築
------	--------------------------

研究代表者

氏名 加藤直樹	所属 教育実践研究支援センター	職名 准教授
------------	--------------------	-----------

研究分担者

氏名	所属	職名

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

社会の情報化が急速に進展し、社会の構造や生活スタイルそのものが変化し、情報化社会に対応した能力を身に付けることが必要となってきた。特に、社会生活を営む中で、自ら学び、考え、主体的に判断・行動し、よりよい方法で問題を解決する力(生きる力)が重要になっている。この点の育成は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(答申)でも「第2期教育振興基本計画について」でも繰り返し述べられている。この生きる力の育成へ向けた教育改革に有効と期待されているのがICTの活用である。

本研究の目的は、様々なICT活用環境のうち、電子黒板、指導者用デジタル教科書、指導者用端末、学習者用端末、学習者用デジタル教科書、端末連携ソフトウェアからなるシステムについて、文科省学びのイノベーション事業、総務省フューチャースクール事業の成果も参考にしつつ、実践現場の教員からヒアリングをしながら、その設置方法、活用方法、管理方法のガイドラインを、実践を通して統合的にまとめることである。

予算配分が十分ではなかったため、新規物品購入は行わず、既に有している機器の範囲での再計画を行い、小平市立小平第七小学校と青梅市立第三小学校に実践の場として協力をいただいた。具体的には、小平七小には一クラス(教師1人、児童33人)分のiPadと電子黒板を、青梅三小には20台のiPadと電子黒板を設置し、様々な実践を行ってもらうための環境整備を通して研究を進めた。研究成果の概要は次のとおりである。

- ・ 20～34台のiPadが、端末連携ソフトウェアを用いた際に、同時アクセス可能なアクセスポイントの設置方法を確認した
- ・ 20～34台のiPadのセッティングにApple Configuratorを用いることを試行し、その手順を整理した(東京学芸大学教育実践研究支援センター名でAppleのVPPに登録を行った)
- ・ 上記アクセスポイントによる校正したLANを、学校のインターネット回線を使わないインターネット接続方法を実装し、動作範囲を検証した
- ・ 児童(iPad)から教師(Macbook)へファイルを収集する一方法としてローカルな電子メールを用いた手法を実装し(メールスクリプトプログラムを開発し)、動作することを確認した
- ・ 教師(Macbook)から児童(iPad)へファイルを配布する一方法としてWebDAVを用いた手法を実装し、動作することを確認した

これらの成果を元に、iPadを教室に導入する際のガイドライン(手順書)を作成し、公開することが残された課題である。

研究成果発表方法

[発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入する。]

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。
なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

今後、ガイドラインをまとめる予定である。また、整備した環境における授業実践の内容については、別途学会等で発表していく予定である。